

平成21年度 特別研修 研修報告書

音楽に対する感性を働かせながら音楽活動に取り組む児童の育成

高校教育研究係

見友 文子 (小学校教諭)

茂木 育子 (小学校教諭)

下谷 真弓 (小学校教諭)

I 主題設定の理由

新学習指導要領の改訂に伴う音楽科の目標の実現に向け、児童の感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を重視した指導が求められている。それは、多様な美しさをもった様々な音や音楽を尊重する心・豊かな心を育む基盤となり、学校での知性と感性の調和のとれた人間育成につながり、音楽教育における「感性育成」の目的であるとも考えられる。そこで、「思いや意図をもって歌唱表現しようとする児童の育成」「音楽の仕組みにふれ、音のおもしろさに気付く指導の工夫」「感受する能力を高める音楽活動の工夫」といった個人主題を設定し、それぞれの実践・検証を通して研究を進めれば指導や音楽活動の工夫ができるであろうと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらいと課題解決策

1 研究のねらい

音楽を特徴付けている諸要素に着目し、それらの働きから生み出されるイメージを感受する能力を高め、音楽のよさに気づき、自分たちの「思い」や「意図」を表現することができるということを様々な音楽活動の実践を通して明らかにしていく。

2 研修計画

時期	研修内容	研修過程	検証の観点・方法	成果物の概要
4月 5月 6月	○「音楽科学習指導要領改訂の要点」について研修 ○音楽班方向性について協議 ○音楽科研修講座「我が国の音楽文化の指導」について研修	研究主題の決定	1 合唱・音楽づくり・鑑賞における授業実践の中で、音楽を特徴付けている 要素に着目させる活動 を取り入れることにより、音楽に対する感性を働かせることにつながったか。 2 グループ で自分の思いを出し合い、表現を工夫していく 学び合い の活動を取り入れることにより、音楽のよさに気づきそれぞれがもつ感性を高め合うことへつながったか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・事前事後意識調査への記入事項からの考察 ・授業中の観察 ・ワークシートへの記入の内容からの考察</div>	☆4～6年 年間指導計画
7月	○研究の内容と方法の構想 ・音楽班共通主題設定、個人主題設定 ・研究のねらい、課題解決策 ・研究の見通し	研究計画の作成 研究の推進		☆合唱・音楽づくり・鑑賞の学習パターン
8月 9月	○学習教材作り、年間指導計画の見直し、授業実践	実践と検証		☆学習指導案
10月	○音楽科研修講座「音楽づくり・創作の指導」について研修 ○検証のための実践 ・授業実践 (各学校) ・授業実践・研究① (長野原町立応桑小 下谷真弓) ・授業実践・研究② (富岡市立高田小 茂木育子) ・授業実践・研究③ (下仁田町立下仁田小 見友文子)	研究のまとめ 研究成果の発信		☆ワークシート
11月				
12月	○研修結果の処理と考察			
1月	・「研究概要説明書」提出 ・「研究概要説明書」修正			
2月	・ぐんま教育フェスタパネル展示 ・「研究概要説明書」最終提出			

Ⅲ 課題解決のための具体的実践

1 授業実践

思いや意図をもって歌唱表現しようとする児童の育成
 —音楽の諸要素を表現に生かす活動を通して—

小学校 6 学年

題材名 曲想を生かして合唱しよう

教材 「マイ バラード」松井孝夫作詞／作曲


学習活動・学習内容 ◆評価項目（評価の方法）【十分満足】	時間 (分)	支援及び留意点
本時のめあてをつかむ ・音楽の諸要素に気を付け範唱を聴き、そのよさに気づき自分たちの表現に生かす活動をする。 ・本時は、これまでのグループでの話し合いをもとに、工夫した表現を発表することを確認する。	10	○音楽の諸要素の中から、左の3点に絞って聴くよう助言してから短い曲を聴き、感じたことを話し合い、自分の表現に生かせるようにする。 ○先に聴いた範唱で感じたことを生かしながら歌えるようにする。
グループで考えた工夫をもとに自分たちのマイ バラードを歌おう		
グループごとの発表をする 【グループⅠの発表】 →リズム・音の重なりについての工夫 (3連符をしっかり・自分のパートを大切にしながら歌う) 【グループⅡの発表】 →強弱・音の重なりについての工夫 (強く歌えばより大切ところが強調される。音が重なりとよりきれいな音楽になることを意識して歌う)	20	○表現について話し合った結果を記入した拡大譜を提示したり、自分たちが曲について工夫したところを述べてから歌ったりして、自分たちの思いが聴き手に伝わりやすいようにする。 ○1グループ発表を終えるごとに、すぐにそれぞれよかったところや感想などを発表し合い、お互いを認め合えるようにする。 ○改善すべき点など、指摘されたことを参考にしてその場ですぐ歌い、よりよい表現のために生かせるようにする。
発表を振り返る ・自分たちの発表を振り返り、友達からの意見も参考にしながらよりよい表現を目指す気持ちももてるようにする。	10	○改善すべき点など、指摘されたことを参考にしてその場ですぐ歌い、よりよい表現のために生かせるようにする。
まとめをする ・発表をした感想や本時に学んだことを記入する。 ・自分たちのよさや頑張りにも気付けるようにする。	5	○改善すべき点など、指摘されたことを参考にしてその場ですぐ歌い、よりよい表現のために生かせるようにする。
◆ 感受・表現の工夫 楽曲の構成を理解して【それらを生かした】歌唱表現の工夫をしている。イ②（観察・発表の聴取） ◆ 関・意・態 自分、あるいは友達の歌声や歌唱表現からそのよさや課題を発見しようとしたり、【音楽の諸要素を生かして】その解決に取り組もうとしたりしている。ア②（発表・ワークシート）		児童のワークシートより ・リズムを正確に歌えた。 ・「きらめけ」の所をもっと音程を正しく大きな声で歌いたい。 ・他のグループの工夫も取り入れて歌いたい。

音楽の仕組みにふれ、音のおもしろさに気付く指導の工夫
－音楽づくりの活動を取り入れて－

小学校 4 学年

題材名 いろいろな音の違いを感じ取ろう

教 材 オーラリー物語をつくろう (阪田寛夫作詞・ジョージプールトン作曲・長谷部匡俊編曲)



学習活動・学習内容 ◆評価項目 (評価の方法)【十分満足】	時間 (分)	支援及び留意点			
<p>本時のめあてをつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子を思い浮かべながら「オーラリー」を歌おう。 ・グループのオーラリーをつないで演奏する。 ・学習カードにめあてと工夫したい要素を書く。「音楽の調味料カード」を黒板に貼ってから活動を始める。 <p>《グループ》 <選んだ要素・理由></p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・オーラリーに呼びかけるように、身体表現しながら歌うように助言する。前回工夫したグループの「オーラリー」に朗読を入れながらつないで演奏してみる。 ・さらに、4年生全体の音楽物語をよくできるよう呼びかける。まだ表現されていない「オーラリー」の様子を児童から出させる。 ・学習カードにめあてを書き、工夫カードを黒板に掲示することで、工夫したい要素(リズム・速さ・強弱等)が明確になるようにする。 			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">鍵盤 (低)</td> <td style="width: 33%;">速さ</td> <td style="width: 33%;">子守歌のように</td> </tr> </table>	鍵盤 (低)	速さ	子守歌のように		
鍵盤 (低)	速さ	子守歌のように			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">鉄琴</td> <td style="width: 33%;">リズム</td> <td style="width: 33%;">うきうき、スキップリズム</td> </tr> </table>	鉄琴	リズム	うきうき、スキップリズム		
鉄琴	リズム	うきうき、スキップリズム			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">木琴</td> <td style="width: 33%;">強弱</td> <td style="width: 33%;">いそがしい・休みは小さく</td> </tr> </table>	木琴	強弱	いそがしい・休みは小さく		
木琴	強弱	いそがしい・休みは小さく			
<p>グループごとに場面の様子を表すアンサンブルを工夫する</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの表現したいイメージに合わせて音を探し、組み合わせや演奏順序、音の出し方などを工夫させる。 ・ホワイトボードを準備し、自分たちのイメージした旋律を練習しながら書き込んでいくように指導しておく。そして、確定、修正、方向を目で確認しながら進めていく補助となるようなものとして利用させる。不完全なものでよいので、シートを書くことに力を入れすぎないようにし、練習時間を多く取れるよう話しておく。 			
<p>オーラリーの様子がもっと分かるように [速さ・リズム・強弱] を工夫しよう。</p>					
<ul style="list-style-type: none"> ・朝目覚めるオーラリーの様子を、ベルで表現する。 ・くもの巣に水を忙しくかけるようすを木琴・鉄琴で表現する。 ・種をまき、水をかけ、花をさかせる様子をキーボード(高)で3種類に分かれて弾く。 ・夜がだいふふけてきて、ゆったりしている様子をバスオルガンで弾く。 ・月を見上げながらお友達とお話している様子をリコーダーで表現する。 ・目覚め、鳥の鳴き声、水遊び、星、夢の中をシンバル・擬音笛・トライアングル・タンバリン・箏・スズ・パーチャイムであらわす。 					
<p>◆ 感受・表現の工夫 場面の様子を表すリズムや速さ、強弱などを【音楽の要素や仕組みなどを考えながら】工夫している。(グループ活動の様子観察)</p> <p>♪ (ア) 音色・リズム・強弱・速さ</p>					
<p>互いの演奏を聴き合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つのグループをつないで演奏する。 ・友達の演奏を聴いて、よかったところやアドバイスを発表し合う。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体でつないで音楽物語にすることを確認し、グループ相互のつながりも考えて、違いを出せるよう、アドバイスし合うように促す。 			

感受する能力を高める音楽活動の工夫
—鑑賞から表現への音楽体験を通して—

小学校 5, 6 学年

題材名 曲想を感じ取ろう

教材 「木星」ホルスト作曲

主な学習活動 ◆評価項目 (評価の方法)【十分満足】	時間 (分)	支援及び留意点
<p>○リズム打ちを行う。 ○「ふるさと」を歌う。 ○本時の学習のめあてを聞く。</p>	7	<p>○雰囲気作りをする。 ○ふるさとでは自分が気を付けるポイントを選ばせる。</p>
<p>曲を聴いて想像したことや感じたことを発表しよう</p>		
<p>○「木星」の中間部を聴く。 ○題名をあてる。</p> <p>児童の反応 曲名 木星・地球・土星 速度 大きい、迫力がある、静か、自然が多い 強弱 暗い、どっしり、丸い、自然が多い</p>	5	<p>○「惑星」の中の1曲であることを知らせ、自由に想像できるようにする。 ○感想を発表する時はなぜそう思ったかを聞き、想像を深める。</p>
<p>○ポイント (音楽を特徴付けている要素) に沿って2回聴く。</p> <p>児童からの考え 速度 ゆっくりで、大きい感じ。回っている感じ。大きくて優しい感じ。 強弱 なめらかで、波のような感じ。 音程 低くて大きくどっしりしている感じ。低い音でさみしい感じ。 楽器 音の低い楽器で落ち着く感じ。</p>	15	<p>○一人一人が聴くポイントを絞って聴く。 ○気付いたことを付箋紙に書きこみ、貼り出せるようにする。 ○2回目はポイントを変えても同じでもよいことを伝える。 ○自分が気付いた部分で挙手をし、理由を発表させる。 ○知っている音符や記号について発表する。</p>
<p>○楽譜に照らし合わせて聴く。</p> <p>確認した音符・記号  </p>	10	<p>○3拍子は振ってみる。 ○楽器についても聴くよう助言する。</p>
<p>○曲から感じたことを自由に発表し、イメージに合った色を付ける。</p> <p>◆鑑賞の能力 5年：情景を想像したり曲想の変化を感じ取ったりして聴くことができる。 6年：曲想の変化を感じ取ったり、移り変わっていく響きを味わったりしながら聴くことができる。 エ① (発言・鑑賞の様子・学習カード)</p>	8	<p>○曲名と音楽について思ったことや想像したことを自由に発表させる。 ○発表の際、どうして？の部分が説明できるよう助言する。</p> <p>5時間目終了後の児童の感想 ・自分たちで作った「木星」が楽器や速度で思い通りに表現できてよかった。 ・曲のイメージを表現するにはリズムや低音がとても大切だということが分かった。 ・一つにまとまって演奏することが大変だったけれど、協力することができた。</p>



ワークシートより

- ・最初の部分はこれから星たちが出発するような感じ。
- ・速度からどっしりした大きな星で、大きな木や大きな生き物がいる。
- ・中間部はぐいぐい伸びていく感じ。
- ・ゆっくり回っている。ほかの星も周りにある感じ。
- ・繰り返しが多くて宇宙が広がっていく感じ。
- ・最初はいろいろな楽器で演奏していてロケットが速く飛んでいて、そのあと木星がゆっくり出てくる感じ。

児童がイメージした木星

- ・黄色で星に囲まれている。にぎやか。
- ・黒くて大きい。・紫で落ち着いている。
- ・茶色で大きくどっしりしている。
- ・緑で自然がたくさんある。
- ・赤でゆっくり回っている。

2 成果物の活用

ステキな合唱をつくらう!
～合唱の学習ステップ表～

曲名: _____ 作詞(作曲): _____
名前: _____

できたらチェック!

ステップ 1 聴いてみる	ステップ 2 歌ってみる	ステップ 3 合わせてみる	ステップ 4 つくりあげる										
<ul style="list-style-type: none"> 曲を聴く。 感じたことを発表し合う。 心に残ったのはどんなところかな? 歌詞を読んで内容を理解し、作詞者の思いを尋ねる。 もう一度聴いてみる。 曲想を話し合う。 <p>♪ 音楽を特徴付けている要素をもとにして</p> <p>参考にしてね</p> <table border="1"> <tr> <td>音色</td> <td>リズム</td> </tr> <tr> <td>メロディ</td> <td>音程</td> </tr> <tr> <td>テンポ</td> <td>曲想</td> </tr> <tr> <td>楽器</td> <td>歌詞</td> </tr> <tr> <td>変化</td> <td></td> </tr> </table>	音色	リズム	メロディ	音程	テンポ	曲想	楽器	歌詞	変化		<ul style="list-style-type: none"> 主旋律を歌ってみる。 ゆっくり歌ってみる。 リズムを正しく歌ってみる。 音程を正しく歌ってみる。 <ul style="list-style-type: none"> 副旋律を歌ってみる。 ゆっくり歌ってみる。 リズムを正しく歌ってみる。 音程を正しく歌ってみる。 <ul style="list-style-type: none"> 自分に合うパートを見付ける。 声質、声域に合ったパートはどこかな? パート練習をする <p>♪ リーダーを中心に、声帯を合わせたり、音色を合わせたりしながら、パートの声をくり返しよう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> 合わせて歌ってみる。 ゆっくり歌ってみる。 きれいな発音で、自分のパートの音程を正しく歌う。 他のパートの声をよく聴きながら歌う。 パート練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> 合わせてみて、よく歌えなかったところを練習する。 もう一度合わせて歌ってみる。 <p>♪ スズキさん流の「あーいーうー」</p> <p>明るい声を出すには・・・</p> <ol style="list-style-type: none"> 息の吐け方 「お歌の練習はお腹から」 大きな声で「あーいーうー」 頭上の発声 のど力をめいて、すんだ柔らかい声で喉の方に響かすように歌う。 鼻のくさくさ 鼻に響かせず歌う。 「お歌の練習はのどのお腹の間に響かせよう」 音色 同じ音程の音を重ねるとともに歌ってみる。どっちがいい? <p>♪ を大きく開けるには・・・</p> <ol style="list-style-type: none"> 発音 「口は半開けて「アーエーイーオーウー」 めまびこ発音 遠くへ声を送るように「ワッコーー」 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を話し合っ、演奏の仕方を工夫してみる。 音楽を特徴付けている要素をもとにして。 一番盛り上がるころはどこ? 気持ちを含めて、美しい響きでステキな合唱をする。 <p>あーかーいーえー くーちきーおおきく せーのーほーしてー</p>
音色	リズム												
メロディ	音程												
テンポ	曲想												
楽器	歌詞												
変化													

学習のはじめに学習パターンを児童に提示して、見通しをもった学習ができるようにした。

IV 研究の成果と課題

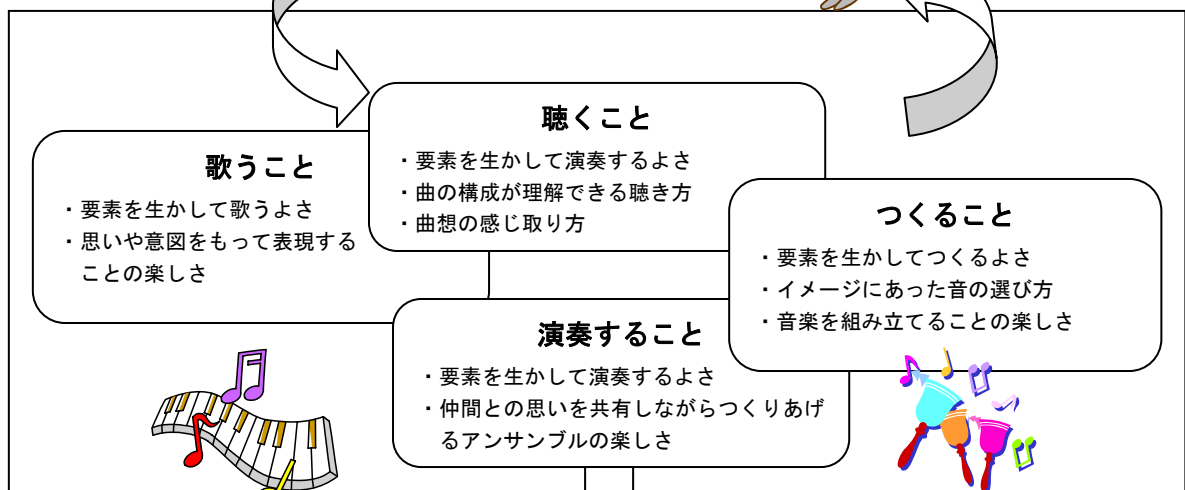
1 成果

音楽を特徴付けている要素に着目させる活動を多く取り入れる

応用し、操作する力

思考力・判断力・感受力

操作するんだあ!



- 音楽を特徴付けている諸要素に着目させることで、活動のねらいを明確にし、ねらいにせまる取組をすることができた。
- 音楽を特徴付けている諸要素の働きから生み出されるイメージを感受する能力が高まったことで、音楽のよさを理解し、音楽活動を楽しむ児童が増えた。
- お互いの気付きを学び合う活動を取り入れたことで、音楽を聴き深めることができ、感性を高め合う学習活動ができた。

感性を働かせる児童の育成

2 課題

- 音楽を特徴付けている諸要素に着目させる活動については、児童の発達段階を踏まえ、6年間を見通した計画を立てていく必要がある。
- 「このように表現したい」という自分の思いを明らかにし、音楽を特徴付けている諸要素を操作し、その働きから生み出されるイメージをもとに表現できる児童を育成する。